

「ASEAN の食品企業を訪ねて」
＝ブルネイ・インドネシア・フィリピン＝

エスビー食品株式会社
商品本部海外開発・企画ユニット
海老原 理

今回は、ブルネイ、インドネシア、フィリピンの3カ国を訪問いたしました。

最初の訪問国ブルネイは、石油などの天然資源が多く、経済的に恵まれた国であります。一方で、外貨獲得の95%以上が石油などの天然資源となっていることから、ブルネイ政府としては、外貨獲得手段の多様化を目指しているとのこと。また、数年前の穀物価格の上昇を経験してから、ブルネイにおける食料生産量の向上を目指し、いくつかの政府プロジェクトも進められているようです。

そこで今回、ブルネイ農水省が所有する土地で、地元スーパーマーケットの運営する農場を訪問いたしました。約20haの土地で、様々な野菜や果物の栽培と、ブロイラー肥育を行っており、収穫した野菜や果物、鶏肉、卵は、運営するスーパーマーケットに出荷されるとのこと。こうした取組を行っている農場がブルネイ国内に4～5か所あるそうです。

訪問した農場では、大根、ハーブ系薬物野菜、パパイヤ、ランブータンなど、数多くの農産物が栽培されており、ブルネイの気候や土壌が、農産物栽培に適した地域であることを確認することができました。ただし、今後さらに生産能力を増やすためには、栽培面積の拡大や、栽培・肥育ノウハウの蓄積、さらにコストダウンなど、様々な課題をクリアする必要があります。



写真：野菜は主にハウスで栽培



写真：様々な果物の木々

次の訪問国のインドネシアでは、ジョグジャカルタという都市に滞在しました。ジョグジャカルタの町では、多くの人が行き交い、非常に活気にあふれており、インドネシア経済の順調な成長が感じられました。

ジョグジャカルタでの企業調査では5社を訪問いたしましたが、その中に、健康茶を取り扱っている会社がありました。詳細を伺うと、原料として生姜、シナモン、クローブなどの香辛料を用い、調合はジョグジャカルタ伝統のレシピとのこと。日本でも生姜は発汗

作用があることから、風邪をひいたときなどに摂取されることがありますが、ジョグジャカルタでも同様に昔から香辛料を健康改善などに用いてきているようです。企業訪問の後日、地元の市場を見学いたしました。この健康茶に用いられる原料の香辛料が大量に積まれており、中にはミックス品を少量パックにして販売している店舗もあって、この健康茶がジョグジャカルタの生活に深く根付いているのが分かりました。

また別の野菜・果物を取り扱っている地元の市場を見学したところ、今度は大量に積まれた様々な種類の果物を見ることができました。インドネシアという国の気候・土壌などの条件が、南国フルーツの栽培に非常に適していることが良く分かりました。



写真：様々な種類の果物が大量に陳列されている

最終日は、ジャカルタに一日滞在いたしました。多くのショッピングモールが立ち並び、高級レストランでは多くの地元の方々が食事をしておりました。このように、ジャカルタにおきましても、インドネシア経済の好調さを垣間見ることができました。

続いてフィリピンへの移動の際、トランジットの関係で、シンガポールに1泊しました。シンガポールには夜の10時過ぎに到着したのですが、街は高層ビルのネオンがきらめき、道路も非常に整備され、東南アジアの他の9カ国とは、全く違った様相をしておりました。さらに港には多くのコンテナが積み込まれており、国際物流の中心地の一つであることが良く分かります。翌日、早起きして市内を散歩しましたが、欧米からと思われるビジネスマンが行き交い、経済の中心地であることも実感させられました。1泊のシンガポール滞在でありましたが、大変貴重な訪問となりました。



写真：奥の変わった建物はカジノ



写真：高層ビルが立ち並ぶ

最後の国フィリピンでは、到着日の深夜に台風が上陸し、その影響による大規模停電に見舞われるというハプニングがありました。幸い、宿泊ホテルでは自家発電設備があったので、台風の影響の大きさに全く気付かなかったのですが、翌日食品企業調査のため車での移動をはじめますと、停電により道路の信号が消えている箇所があり、また側道の木々が倒れるなど、被害の大きさが窺えました。そのため、渋滞がひどく、車での移動に想定以上の時間がかかりました。また訪問先の工場では、停電による稼働停止状態となり、台風の被害を受けやすいフィリピンの土地柄というものを肌で感じる事ができました。ちなみに中小規模の食品企業では、停電時に備えた自家発電設備を設置している企業はほとんど無く、今後の課題といえるかもしれません。



写真：台風翌日（至る所で浸水）



写真：中小規模の食品工場

視察した食品企業の中には、かなり規模の小さい企業も多かったのですが、工場を視察してみると、資金不足による設備面や建物面での課題は見られるものの、工場のヒト・モノの流れが一方通行であるなど、HACCPの考えに基づくような管理が進められている企業を確認できました。理由を聞いてみますと、政府機関の **Department of Trade & Industry** が中小企業向けに食品工場の衛生管理などを指導するプログラムがあるとのこと。様々な課題があるものの、中小企業の底上げができつつあることも確認することができました。

以上、4カ国を訪問いたしました。今回感じたことはアセアンの多様性です。同じアセアン諸国といっても、今回訪問したブルネイ、インドネシア、シンガポール、フィリピンでは、食品産業においても、経済状況や食・文化などにおいても、全く異なる要素が多く、逆にそれがアセアンの様々な可能性を示しているものだと思います。

以上